

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六）（公衆）〇四七二（22）七二〇七

国鉄「分割・民営化」反対！三里塚二期工事阻止！

戦争に向けた労働運動の再編

全民労連結成弾刻

十一月二〇日、全民労連が発足した。彼ら旗振り人どもが目的としているところは、総評の解体であり、まがりなりにも「平和と民主主義」を旗じるしに戦後労働運動を牽引してきた総評労働運動を絶滅・一掃し、日の丸労働運動におき変えようというものである。当然のごとく、政府（竹下など）、財界どもは両手をあげて結成を歓迎している。だが、反面、逆流に抗し、あくまでも全民労連打倒を決意する労働者・大衆も激しく胎動と活性化を開始している。まさに、日本労働運動は最大の試練と大激動過程に突入している。われわれのとるべき道は、鮮明である。分割・民営化との闘いをはじめ幾多の困難をのりこえながら、労働運動の大義を守りたえず原点に立ちかえりつつ闘い続けてきたこれまでの歩みをしっかりとし、確信も固く全国無数に決起を開始した仲間たちとがっしりとスクラムを組んで断固前進することである。

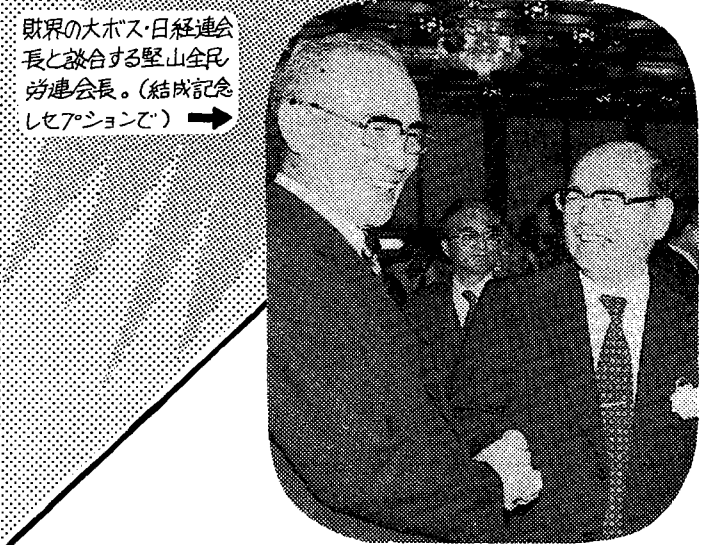
戦争と暗黒への道を許すな

全民労連の結成は労働戦線の「統一」の名をかき右からの労働運動攻撃であり、戦闘的労働運動はもとより、「労働組合」そのものを否定するという新たな産業報国会運動そのものである。それは、右翼ダラ幹どもが公然と「階級的労働運動は否定する」「安保・自衛隊は賛成」「国際自由労連一括加盟」等々を方針としていることからも明らかである。

労働者が自ら闘うことを放棄し、国家や資本のいなりになったとき、再び戦争と暗黒の時代を許してしまう。その時になってからでは遅いのだ。われわれは、あくまでも闘う労働運動の旗を守る、総評解体絶対反対を広く呼びかける。

全民労連の急所＝革マル松崎・鉄道労連を解体・一掃しよう

全民労連の最悪の突撃隊こそ松崎・鉄道労連だ。日帝・支配階級は、屈服・転向した革マル松崎



を大いに利用し彼らをけしめしたて総評破壊のためにトコトン使いきろうとしている。松崎もまた、なりふりかまわぬ裏切りと労働者階級への公然たる敵対を積み重ねながら、その「実績」をもって日帝・権力の犬となりさがることで自らの延命をはかるうと大罪に大罪を重ねている。

労働者・大衆の怒りはもはや爆発寸前であり、がまんは限度をこえている。われわれは断言する。全民労連＝総評破壊攻撃の最大の弱点が、今や多くの者の憎しみの的となっている革マル松崎・鉄道労連を先手として使わざるを得ないところにこの攻撃の最大の破綻性、危機性がある。われわれは、敵の急所をにぎってはなさず、猛然と決起し、必ず打ち倒すことを、ここに宣言する。

たたかう全国潮流の形成・拡大を、その先頭に起とう

深刻な経済不況と国際競争の激化の中で、日本支配階級はその危機突破をかけて、首切り、合理化、労働強化、諸権利の剥奪、そして労働運動破壊等々すべての犠牲を労働者に転嫁してきている。労働者・大衆の反撃と現状打破を求め、声は日増しにたかまわってきている。

問われているのは、既成労働運動の幹部達の「かけひき」や「不毛な談合」などではなく、労働運動の原点にたちかえり、労働者・大衆の力に依拠し、確信をもって闘いを貫くことである。

口先で右翼的再編反対を唱えながらも敵の攻撃に屈服し、小集団活動を率先して担ったり、鉄道労連とのたかいかいさえ放棄している日共＝統一労働組合は労働運動とは無縁である。

わが動労千葉は、三里塚・労農連帯を軸として八〇年代に通用する労働運動の創造のたたかいを全組合員が一丸となっておし進めてきた。この真価が全面的に発揮されるときを迎えている。

冬季物販、上映運動と結合し、闘う全国潮流形成・拡大のために全力を傾注したたたかひぬこう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！